

ASOSA

留学生の声

Bringing Aloha to Hirosaki

弘前大学 人文学部 交換留学生

ユー・サマンサ (アメリカ)



Aloha, my name is Samantha Yu (ユー・サマンサ) and I am an American international student at Hirosaki University. I am lucky enough to be chosen as an exchange student for two semesters here in Japan. I am a sophomore from the University of Hawaii, and I am studying to get my Bachelors in Industrial and Organizational Psychology. This is the first year that Hirosaki University and the University of Hawaii have done an exchange, so I feel quite privileged to be here. The reason I chose to study abroad is quite simple, I wanted to learn how to better communicate with people from different cultures. There is no better way to grow as a person than to push yourself outside of your comfort zone and challenge yourself in a different environment. My University offers many different exchange programs with other countries and schools in Japan, but I specifically chose Hirosaki because I was awed by the rich history of the area, the historical buildings and landmarks, the gorgeous landscape and the overall serenity of the city of Hirosaki. Also, Hirosaki University offers many classes to students at any Japanese language level, which is something that many other Japanese universities might not have available to students with no Japanese language background.

Before I began attending college and came to Hirosaki, I had the chance to travel around the United States, and even to many places around the world, but honestly there is nothing that compares to living with other international students and immersing ourselves in Japanese culture. I am so grateful that I can be here and live a life so completely different from what I am used to.

My daily life here is so different than my life in Hawaii. I used to drive every day to school, lay on the beach, hike the trails and swim in the ocean. Now I bike to school, explore the city, mountain hike, ice skate, ski and take many amazing pictures of the gorgeous landscape. Staying in the international house has allowed me to make friends from all over the world! During the weekends, many of us get together and cook dishes from our home country to share with everyone, we get to learn new games, work on our homework, or go out and explore Hirosaki together! I love that Hirosaki city has so many diverse activities, yet it's small enough that you feel like you are living in a small town. Everything is accessible by walking, bike or bus! The best part is that it's just a quick train ride to get to the famous Owani Onsen, Goshogawara, Lake Towada, Shirakami Sanchi, Momiji Mountain, and of course Aomori City.

During my time here at Hirosaki University, I have been able to travel around the entire prefecture with my classmates and interact with the local people. I have been invited to nearly every festival and community gathering that Hirosaki has, it's all thanks to the staff in the support office and the people in the community who go out of their way to make us feel welcome that I have been able to experience the true and generous beauty of Japanese culture. While I have seen many of the local events, I am particularly excited to see the world famous Hirosaki Cherry Blossom festival next semester! While I have a lot of fun trekking around Hirosaki with my friends on the weekends, I think

my most memorable trips are with my classmates. Two of my classes take us on trips to famous or historical landmarks around Hirosaki nearly every week! I have seen the room where the famous writer Osamu Dazai lived while he attended Hirosaki University. We went to Hirosaki Castle, climbed to the top and peeked out the windows to see the snow tipped mountains. We traveled through the ancient homes of Samurais, carefully maintained by the community members. We stayed over-night in a Minpaku Inn, where we enjoyed traditional meals and tried on gorgeous Kimonos. We visited Mt. Iwaki Shrine, walking under the bright red Torii Gates to an awe-inspiring view of an ancient shrine tucked into the natural beauty of the forest surrounding it. We even learned meditation techniques from a Monk. Best of all, we were able to get a glimpse of what has made Japan one of the most wonderful countries in the world. A place where tradition, nature and modernism are all tie together like a Shimenawa to create a culture that both honors their history and embraces their future. I am so glad that I have this opportunity and I most definitely plan on making the most of my adventure here!

ASOSA

留学生の声

「留学-心の成長への捷徑」

弘前大学 理工学部 1年

チン ジー シン (マレーシア)

中学三年生の時、初めて東京に旅行した。そのとき私は日本人のマナーにかなりのショックを受けた。そのとき私はまだ日本語を勉強していない状態で、私が道に迷ったときに、相手は英語がわからなくてもジェスチャーで親切に教えてくれて、私たちを行きたいところまで連れていってくれた。この出来事から、私は日本という国に対して深い興味を持ち始めた。国民に対してどんな教育を行ったのか、こんなに優れた国民性はどうやって鍛えたのかと、いろいろ疑問を持って日本留学を決めた。



帝京グループの日本語学校の分校がマレーシアにあって、私はその20か月のコースに進んだ。元々何人かの友達と一緒に来ると言っていたが、結局私しか行かなかった。ここで日本の大学に入るための試験勉強もするが、日本の高校生が三年で勉強したことを私たちは一年間に終わらせなければならぬ。それは私の今までの人生の中で一番大変な時期であった。

ようやく20か月が終わって、先生のおすすめの通りに弘大を受験した。当時はこの大学しか受験しなかったため、もし落ちたらもう日本に行けないと思い、必死に受験勉強をした。合格発表の日のことは今でも記憶に深く残っている。そのとき私はマレーシアにいて、友達の卒業式の会場の外で、携帯を持って何回も何回も合格発表のページを更新しながら待ちました。やっと結果が表示されて、自分の番号を見つけた時の興奮状態は、もう言語で説明できるものではなかった。もしその時自分の番号がなかったら、今の私はどんな道を歩んでいるのかとよく思う。

日本に来る前、私は20年間ずっと家族と一緒に住んでいた。そのせいでもあるが、自分で生活することは、留学が決まるまでは考えさえできないことだった。自分で服を洗って、ご飯を作って、部屋を片付けて、買い物をして、郵便局や市役所などに色々な手続きをしに行く…これら全部は実家にいると自分でやる機会がなく、実は自分でできるのだと思わないことだった。留学は子供に独立させるいい機会だと思った。その理由は、一人暮らしの時「したくない」ことは気付かないうちに全部「しなければならない」ことになってしまうからだ。

弘大に入学してから楽しいサークルに入って、いろいろな面白い人に出会った。授業で先生の話し方が速すぎて半分しかわからなかったが、今までの大学生活には大満足！前言ったように、一人暮らしは初めは大変だったが、だんだん慣れてくるとやはりその自由さは最高！

「自分の選択に後悔しないこと」は、私のモットーとしてずっと大切にしてきた。育った環境から離れることは悲しみや苦しみもあるが、新しい生き方を見つけて、自分の限界まで挑戦するのが私の人生の目標である。これからも純粋な心で頑張りたい！

ASOSA

留学生の声

「青森大学だからこそ」

青森大学 社会学部2年

游 佳樺 (台湾)



わたしは台湾の実践大学から半年間の短期留学生として青森大学に来ました。実は来る前に留学の期間がちょっと長くないか、わたしは本当にできるのかといろいろなことを考えていました。一人で外国にそんなに長い時間いたことがなかったので不安でした。ですが、青森に来てから「半年はどうしてこんなに短いの」と感じています。時間はまるで財布の中のお金みたいに、すぐなくなっていきます。わたしが留学する前、同じ大学の先輩が「また青森大学に留学したい」と言ったことがあるそうで、今のわたしはその気持ちが理解できます。もう留學生活の半分を過ごしました。もうすぐここから離れて台湾に帰ります。今すぐではないですが、みんなと別れることを考えると悲しいです。まだやりたいことをやり終えていないのに、もう終わってしまうのかという感じがあります。

ほかの国から来た留学生たちと知り合って、みんなと友達になりました。大学には本当にさまざまな外国人がいて、普段よく見かける中国人、韓国人、ベトナム人だけじゃなくて、モンゴル人もいます。台湾ではモンゴル人に会ったことがないので、驚きました。日本にはたくさんの大学があるにもかかわらず、青森大学を選び、卒業をめざして、学部の勉強や日本語の勉強をしています。また、一緒に生活をするを通して、絆を深めています。

みんなと一緒にボートをこいだこと、大学祭に参加したこと、台湾と日本の料理を作ったこと、さまざまな交流会に参加したこと、自分でりんごを採ったこと、生まれて初めて雪を見たこと、友達と三日間の旅行に行ったことなど、これらは全部青森大学に来たからやれたことです。

青森大学での生活の中で、今まで出会った人たちは優しくていい人たちだと気づきました。留学生のみんなだけじゃなくて、先生たちも親切にわたしたちの世話をしてくれて、わたしたちは先生の本当の子どものような感じがします。よく先生たちはお菓子をくれたり、どこかに遊びに連れて行ってくれたり、先生と一緒にカラオケに行ったりしたこともあります。先生たちの本当の子どもになりたいです。

留学というのは、日本人の学生と一緒に授業を受けることだと思っていました。短期留学生たちは日本語の授業を受けることが多く、少し残念だと思います。ですが、日本人の学生たちとの授業は少ないですけど、大学には留学生向けの活動がたくさんあり、日本人と交流する機会が結構多いです。これらのいろいろな活動に参加できることは心からうれしいです。せっかく台湾から日本に来たのだからチャレンジしたいこと、まだ体験していないけど、これから体験してみたいこと、興味があることなどは全部やりたいと思います。

最初はとても不安でしたけど、こんな素晴らしいところに来られて、わたしは今ここで自分の本当の気持ちが述べられます。留学のチャンスを与えてくれた人たちにふたたび心から感謝を申し上げます。

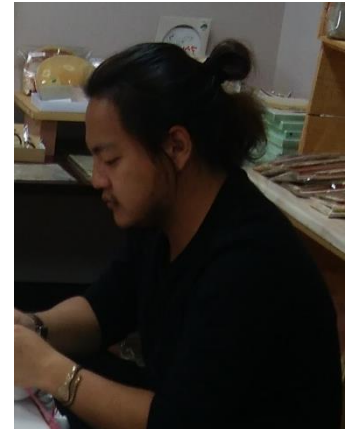
ASOSA

留学生の声

「ここにいる理由 ～日本の冒険～」

八戸工業大学 工学部 生命環境科学科 1年

李 鑫成 (中国)



日本の大河ドラマを見ることを通して、私は日本の初歩的な認識を持って、その独特の文化、仕事、生活をはじめ、自分が苦しくても他人に迷惑をかけないように忍耐する日本人の態度や気持ちに、引き付けられた。特に、各地域で行なわれる伝統行事の祭りや、伝統的な文化、その地域の食べ物に深い興味を持ち、日本で生活をして、日本語や異文化をより深く体験するために、私は日本に来て、冒険を続けることにしました。

日本に最初に来て長野の日本語学校に通っている間に、私は、日本全国を実際に見て歩き、比べた後、最終的に本州の最北端にある青森県の八戸という元気な町に来て留学している。なぜ、わざわざこんな遠い町を選んだのかというと、八戸は大きい町ではなくて、繁栄しているのは中心街しかない、娯楽も週末にみんな集まってお酒を飲んで歌っているだけで何もない町に見えた。しかし、こんな何もない町なのに、私を落ち着かせるようなものがある。それは日本独特の「わびさび」のアメニティーです。初めて八戸に来た時、飲み屋でインテリジェンスを収集する時に「種差海岸」という情報を獲得して、次の日、早速電車で行ってみた。そこで私は、遠くの孤帆を見ながら潮風に吹かれ、自分の将来のことをいろいろ考えていて、気紛れな気持ちもゆっくりと落ち着いてきたことがある。浅瀬では地元の人たちが小魚を捕っていて、昼ご飯の海鮮麺は、値段が高いですが、食材元の味と海の匂いが混じった最高のものでした。

2018年4月の入学式の時、私は他の新入生たちのように、両親と一緒に参加するのではなく、重い荷物を持ち新幹線に乗って、ストレンジャーとして憧れの大学に向かって来た。最初は大学に入ったばかりで全然慣れない、大学生活に大切な書類を知らずに捨てたり、大学までどうやって行くのかもわからない、教室さえ見つからない。そして、一番大変だったのは高校卒業してから、6、7年が経って、もはや昔学んだことが思い出せない、全く初心者みたいにゼロから始めている。それに、日本語の勉強時間が短いので授業で先生が何を言っているのかほとんどわからない。1、2か月後にはだんだん分かってきて、先生が私のことを特別に配慮して、辛抱強く説明してくれた。今、それがすばらしい経験として素敵な思っている。

将来は、遠洋漁業に勤めたいと考えている。夢は、いろんな国に行って、異文化を感じて、いろいろなことにチャレンジする冒険者の人生を歩むことです。今は、その経験を積むための一歩として、八戸で頑張っている。

ASOSA

留学生の声

日本人になれる感じします…

八戸工業高等専門学校 電気情報工学科 第5学年

ダムツァグドルジ バンディニヤム (モンゴル)



私は初めて日本に来てから3年目で、もうすぐ卒業です。3年が早かったけど、ちょうど日本に慣れてきた感じします。去年モンゴル人の後輩が来る前は八戸市で一人のモンゴル人だったので、「モンゴル人と初めて会った」と言う人が多いです。八戸の天候は涼しくてモンゴルの天候と似ていて、3年間八戸の四季を楽しみました。リンゴもぎ、乗馬、スキーなど青森県からこぞできる事であるという間に帰国する時間が近づいてきました。

顔が日本人と同じだし発音もきれいと言われて、最近は自分からモンゴルの人と言い出さないと日本人と思われるようになりました。こうなると皆の外国の人にやさしくしようという気持ちがすごくわかります。店や床屋などで店員が「モンゴルの人だったの」と色々聞いて話してくれるのが大好きです。また学校の留学生たちと一緒に外出し、レストランなどで注文する時、日本人に見える私から先に注文聞いて来るのもなんだか親しく感じます。学校でもクラスメートや先生との関係がお世話になる人から独立し責任を持たせる学生になってきたのもすごくやる気を出します。

日本に来てから意外と外国人の友達ができました。八戸市のみちのく日本語クラスに毎週行っているし、高専の留学生は今10名がいて短期でも色々な国から学生が来ます。八戸高専は国際交流に積極努力しており、私が3年生の時モンゴルに行って国際自主探求をやる機会がありました。この時、内の高専からも先生がモンゴルへ行き私の結果を見て、日本人の学生もモンゴルで探究するアイデアを出し、次の年から高専の学生たちがモンゴル行って探究するようになりました。同校の日本人の学生に母国を案内する、一緒に探究するというのは非常に面白い経験でした。モンゴルであまり気にしないことでも皆が驚いて、私も日本に来て最初はいろいろと驚いたことが思い出しました。こうやって立場が替えると留学ということをもっと分かったような感じしました。

勉強の方で一番印象に残ったのは高専の授業の様子、学生と先生の関係です。日本に来て最初の授業に出たらすごく静かでした。先生が質問しても名前が呼ばれるまでは答えなく、先生だけの授業になっていました。モンゴルだと質問されると知っている人がすぐに答えてしまったり、先生に質問したりします。今考えたら、やっぱりこうやると授業が分かっている人だけで授業が進んでしまっていると思いました。日本の場合は皆が他の人のこと考え、譲り合い、他人に迷惑かけないという気持ちが授業の様子からも見えます。

今は学校に行っても、買い物してもいつもの知っている人と見えています。最近、日本人のように皆と生活を楽しむのも面白くて、私が外国にいる感じはあまりしなくなりました。これからもよろしくお願いします。

ASOSA

留学生の声

私が選んだ道

青森中央学院大学 経営法学部 3年

スワンネット ウィールット (タイ)



日本に来て以来、様々な“異文化”がありました。私の留学生活は、タイにいる時と比較すると、さらに便利になっています。タイではインターネットショッピングはまだ流行っていなかったし、今はコンビニも大学の近くにあります。そして、必要なものを販売する店も全部あります。

勉強のことは、タイでは高校までしか勉強したことないので、日本に来て、日本の大学で勉強することは、タイと同じなのかどうか全然わかりませんでした。難しさはどこの大学でも同じだと思ってがんばりました。大学一年生の時は、言うまでもなく一番大変な時期で、留学生にとっては誰でも同じだと思います。その時は日本語もまだまだでしたし、勉強したこともない科目がたくさんありました。しかし、先輩達が様々な勉強の方法を教えてくれたので、最高評価とはいきませんでした。思った以上に良い成績がとれました。2、3年生の時には、勉強の方法や様々な科目の内容にかなり慣れてきたので、問題は少なくなっていました。

課外活動では、私は他の留学生と比べると参加数が少ないかなと思っていますが、様々な交流会に参加するようにしています。私の最初の交流会は弘前公園のお花見でした。その時は小グループに分かれて、様々な人とお話しして、ゲームをして、指定されたポイントを探して写真を撮るミッションをしました。日本に来たばかりだったので、あまり話せませんでした。とても楽しかったことを覚えています。また、ねぶた祭りも参加しました。ねぶた祭りは青森県の有名な祭りだと聞いていて、聞いていたとおりにコースを周る時に掛け声をかけたり、跳ねたりしました。とても暑かったのですが、本当に楽しかったです。そして、紅葉にも行ってみました。少し寒かったのですが、紅葉が綺麗で十和田湖も天気良くて、紅葉は私の一番好きな交流会になりました。

私は日本に来て、様々なことがあって、楽しいのですが、タイに戻りたいという気持ちももちろんあります。その理由は、初めてこのように長期間、実家以外で暮らしたこともなかったですし、友達関係とか授業の難しさとか、そのほかにも小さいことで、自分が弱くなり、タイに戻りたい気持ちになってしまうからです。例えば、本場のタイ料理を食べたい時やタイにいる友達と遊びに行きたい時、自分のペットに会いたい時、帰国したいですね。そういう時にいつも自分の愛する家族から応援の声があります。そうなるとうるさなやる気がよみがえってきて、気持ちが良くなって、自分の目標を再確認することができるので、一番ありがたいです。

留学生活には、嬉しい時、寂しい時、悩ましい時、様々な時があります。嬉しい時には全然問題ありませんが、寂しい時や悩ましい時があったら、一番いい方法は冷静になって考えることだと思います。考えた後でまだ直せないと感じたら自分が信じている家族に相談するもいいと思います。

留学は私が選んだ道なので、このように自分を奮い立たせています。これからももっといい留学生活になるように頑張るつもりです。

ASOSA

留学生の声

忘れられない留学生活

青森中央学院大学 経営法学部 2年

チュー ケシン (マレーシア)



マレーシア・ペナン出身のチュー ケシンと申します。2017年の春、青森に来ました。なぜ日本を留学先として選んだかという、日本は安全・安心、おもてなしの国だと言われていて、日本の伝統的な文化と日本語を学びたいと思い、日本に留学することを決めました。青森に来る前は、青森のことを聞いたことがなかったので、インターネットで青森の情報を調べたことを覚えています。リンゴが有名、冬が寒すぎる、ねぶた祭が最高という情報が出てきました。青森は東京や大阪のようなにぎやかな大都市ではなく、美しい自然や豊かな農林水産物という資源が溢れているという情報もあり、魅力的な青森に留学できたらいいなと考えました。

青森に留学するという事は、私が初めて家族と離れて一人で暮らすということになるので、いろいろ心配と不安を持っていたのですが、大学での生活をとても期待していました。青森に来たばかりの時、わからないことがたくさんあって、本当に大変でした。また、専門科目の授業で先生の話すのが速いし、日本人と一緒に勉強するから、授業では全部日本語でしか話しませんでした。その時、基礎の日本語だけ学んでいた私はとても困ってしまいました。しかし、どんな困難があっても、最後まで諦めないことが重要だと思っていたので、毎日一生懸命日本語を勉強したり、わからない文法や言葉を先生に聞いたりして、日本語がうまくなるように努力しました。また、同じ国の先輩が優しく、生活と授業のことでいつもアドバイスをしてくれました。今は日本の生活にも慣れましたし、日本語能力試験N2級も合格できましたし、専門の授業のレポートも書けるようになりました。

青森の一年は、四季の景色がきれいです。春になると、桜が咲き始めます。大学は留学生を弘前のお花見に連れて行ってくれます。花見をきっかけとして日本人学生と留学生との文化交流ができました。青森の夏といえば『ねぶた祭』。毎年8月上旬に行われます。日本全国からだけではなく外国人観光客もたくさん訪れます。曳き回される巨大燈籠とねぶた囃子「ラッセラー」の威勢のよいかげ声でとてもにぎやかです。1年生の時、ハネト衣装を着て友達とねぶたに参加して、とても楽しかったです。秋になると、葉の色が黄色や赤色が変わって、気温が涼しくなります。大学では、他の国の留学生や日本人学生と一緒に奥入瀬溪流・十和田湖へ紅葉を見に行きます。たくさん写真を撮ったり、交流したりして、みんなの関係が近くなります。青森は日本の東北地方にあるので、冬はすごく寒いです。雪がいっぱい降っていると雪が積もるので、自転車に乗れなくなります。買い物に行く時、バスあるいは歩くしかなく本当に不便でしたね。

青森中央学院大学には留学生が多いので、国際交流活動が活発に行われています。例えば、留学生が県内の小学校に行って、自分の国の言葉や文化を小学生に紹介します。小学生は好奇心が強かいので、たくさん質問をしてくれます。一緒にゲームしたり、写真を撮ったりして、楽しく学ぶ時間を私も楽しんでいます。高校の学園祭(文化祭)に参加することもあります。高校生たちは留学生に校内の案内をしてくれたり、一緒にゲームをしたり、食べ物を食べたりしました。高校生たちは優しく、元気ですね。また、高校生の英語力向上に一役買うため、青森の高校生との英語交流も活発に行われています。それによって、留学生も日本のことを詳しく理解できるようになるし、高校生も外国の文化や知識を得ることができるのではないかと思います。

私は、新しい環境に身を置くことで、知識を得たり、世界観と見識を広げたりできることを実感しました。色々な国の留学生や日本人学生と友達になって、色々な経験をさせてもらって、青森に留学したことは本当に良かったと思っています。青森の文化や生活を理解して、青森のことがだんだん好きになりました。4年間の留学生活というものは、これからもずっと記憶に残っていると思います。

将来、機会があれば、私は日本とマレーシアの友好関係を築くために、大学で学んだ知識を活用して、日本企業あるいはマレーシアの日系企業に就職したいと考えていますので、卒業までさらに充実した留学生活を送れるようにがんばりたいと思います。